

担任の仕事を考える 「生徒の気づきと学び」を最大化するPJ 第30回 (2020/11/18)

対話の内容

学校には、様々な役職があります。校長、教頭、副校長、教務主任、進路主任,,、様々な役職の中でも、最も生徒に近く、最も生徒に記憶される役職。それは『担任』ではないでしょうか。

今回の対話では、そんな『担任』にフォーカスを当て、対話しました。

「担任は、生徒にとってどのような存在であるべきなのか？」

「担任は、何をなしえたらよい担任だったと言えるのか？」

「より良い担任になるためには、何を心がけていくべきなのか？」

上記のような問いをもとに、気づきの多い対話が行われました。

今回のキーワード

全てのベースは信頼関係

相手が生徒であれ保護者であれ、信頼関係があってこそ学習支援は成り立つ。「生徒の尊重」と「日常的なコミュニケーション」をベースに、日々信頼関係を積み上げていく。

→ 生徒を認め、フィードバックし成長を引き出す

生徒の成長に気づき、承認し、更なる成長を引き出す。プラスの成長を生徒が自覚する手助けが、担任ならではの価値ではないか。

「自分らしい担任の姿」を描き、向き合う

積んできた経験や世代によって、生徒の成長の引き出し方は違う。型にこだわらず、自分らしい生徒の成長の引き出し方が重要。

- 話題提供 本PJメンバー 学校法人 石川高等学校・石川義塾中学校 竹下 大翔 先生、サレジオ学院中学校・高等学校 染谷 諒 先生 -

・教科指導力への信頼、進路指導力への信頼、そして何より人間としての信頼(染谷先生)

・生徒に向き合いながら、「問い」を投げかけられる担任を目指す(染谷先生)

・「面倒見が良い学校」で、どのような面倒見を目指すべきか？その接し方は、生徒の成長に寄与できている接し方になっているのか(竹下先生)

・生徒と保護者と、より良い合意の仕方を考えたい。特に進路指導上での合意の仕方はもっと良くできる。(竹下先生)

- 先生の声 -

・キーワードは信頼と感じた。どんな期待をしているか、もっと開示していこうと感じた(神奈川)

・担任だからといって、自分のクラスだけ見ればよいわけではない。逆に抱えすぎる必要もない。学校の中で良い機能になれば良い(北海道)

・「この学校に来て良かった」と感じるかどうか、最も関係する先生が担任。生徒自身が安全安心を感じて学べる環境を作る役割は、実は大事ではないか(岡山)

・面倒見が良いことが、望ましい担任とは限らない。生徒の意思を尊重し、目指す成長を手助けすることが大切と感じた。(福島)

「生徒の気づきと学び」を最大化するPJアーカイブはこちらから:<https://berd.benesse.jp/publicity/>

生徒の気づきと学びの最大化

若手担任として、これから考えたい事

学法石川高等学校・石川義塾中学校

竹下 大翔

自己紹介

竹下 大翔（たけした たいしょう）

学校法人石川高等学校・石川義塾中学校（福島県）

教員 6 年目

中学 2・3 年副担任→高校 1・2・3 年担任→高校 1 年担任

昨年まで担任だったクラスの特徴

部活動中心だが進学もしたい

今年担任をしているクラスの特徴

進学中心だが部活動もしたい

学校が掲げる 3つの柱

- 文武両道
部活動と勉強の両立
- 出口の保証
高校卒業時に進む先が決まっている
- 師弟間の絆
「魚水の精神」
卒業後も生徒が教員に会いに来る関係性

担任を1周経験して

進路面における悩みや葛藤

- やりたいことが見つからず、学力や勉強へ向かう思いや高校でやってきたことを考えると進学後が心配
- 保護者と生徒、担任での目標や考えを共有することの難しさ

生徒との接し方での悩みや葛藤

- ただ甘やかすだけの接し方になっているのではないか
- クラスになじめない生徒、障害を持つ生徒との接し方

問1. クラスの生徒（保護者）とどう合意するのが良いのか？

1. やりたい事や目指す職業など明確な理由をもって進学先を選んでほしい
2. 保護者と生徒の意向を共有するのが難しい

担任として意識していること

生徒が大学や職業についての知識を蓄える機会を増やす

今後やっていきたいこと

ICTを活用し、生徒と保護者で情報共有できる場をつくる

ICTを用いた生徒と保護者との共有

寮生活のため、保護者と離れている生徒が、保護者の考えを知る機会をつくる

担任として保護者の考えを共有したい

三者面談に向けて、生徒用・保護者用にアンケートを作成し、話題やそれぞれの考えを事前に答えてもらう。

生徒が作成した発表用資料やワークシートを保護者が閲覧できるようにし、生徒の思いを保護者に知ってもらう。

コメントなどから保護者の思いを生徒にも伝えていく。

問2. クラスの生徒と、どう向き合うのか？

1. 生徒が抱える問題と一緒にになって悩み、解決してきたが、生徒の成長を考えるとどの程度関わるべきなのか
2. クラス単位でも生徒と接する時間に差ができてしまったが、なるべく差がないほうが良いのか

担任として意識していること

問題の捉え方や答えを出すまでの考え方などをアドバイスし、生徒本人が解決していけるようにする

クラス全体を相手にするときは接する機会の少ない子と関わるように

生徒の気づきと学びを
最大化するPJ
第30回 話題提供

サレジオ学院中学校・高等学校
染谷 諒

自己紹介

染谷 諒(そめや りょう)

サレジオ学院中学校・高等学校(神奈川県)

中高一貫校の男子校

高校2年生担任・進路指導部・総合探究担当

教員9年目(+大学院時代2年間)

【高2・3副担→高2・3担任→中1・2・3・高1・2担任】

竹下先生のお悩みを聞いて...

「今、自分が悩んでいることと同じじゃないですか!？」

- ・そもそも自分は1周すらしていない...

(本校では1周=6年)

- ・高1～高3までで信頼関係を作るって大変だろうな...

- ・大学で何を学びたいか、将来どうありたいか、

思い描いていない生徒、うちのクラスにもいるな...

私の4年目(高3担任)を思い出すと...

- ・とにかく若いうちは生徒と体当たりで向き合うことを意識

(本校の用語では「アシステンツァ(=ともにいること)」)

→**人間**として信頼してもらう

- ・「教科力」を上げるためにひたすら勉強

→**教科**力を信頼してもらう

- ・進路に関する情報・データ収集・研究会参加

→**進路**指導も信頼してもらう

これらは今でも大切にしていること

問. 生徒が**将来**を描く支援をどうすればよいか？

そもそも将来, 生徒がどんな姿になって欲しいか？

- 1. 大学で学びたいことを充実して学んでいること
- 2. 社会問題に対して, 深く考えることができること

【今現在, 担任の立場で私が意識していること】

- ・とにかく生徒と向き合い続ける
- ・探究・論文活動から進路を考えさせる
- ・「深い問い」を投げかける

例. 小田急の撮り鉄迷惑行為をどう思うか？

人権の尊重のし過ぎで法と罰が甘いのかと思う(死刑廃止とか)。(あおり運転対策みたいに)もっと厳罰化をするべきかと思う。

若者や特定の趣味・嗜好・宗教を持つ人間の異常行動が、メディアの報道を通して時代を象徴する社会問題として取り沙汰されるのはどの時代・地域でも見られる現象であり、その対象が現代においてはいわゆる「撮り鉄」や「YouTuber」であるだけであり、大したデータの裏付けも持ち出さずに今回のような個別の事象を切り取って個人の趣味・思想の内容を問題にするのはいささか度が過ぎるかなと思う。

鉄道の件だけでなく最近のそのようなニュースを見ると、禁止されているが、他の人がしていないこととして優越感を得ようとしている人が多い印象がある。また、このようなことをする人はどんな対策をしてもルールを破ろうとするので若干仕方ないと思ってしまう反面、これからの日本の道徳教育を変える必要があると思う。